

2015年8月7日

シースルー有機太陽電池フィルムの市場開拓を開始

三菱化学株式会社

三菱化学株式会社(東京都千代田区、社長：石塚 博昭、以下「当社」)は、有機薄膜太陽電池を用いた「シースルー発電フィルム」を開発・実用化し、市場開拓を開始することとしました。

当社の有機薄膜太陽電池は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の助成事業「有機系太陽電池実用化先導技術開発」に採択され、これまで窓や建物外装などへの使用について実証実験を進めてきました(例：仙台国際センター渡り廊下の窓への設置)。

太陽光発電については、パネルの設置場所が限られる都市部においては、より多くの発電量を確保するために、建物の屋根や屋上面に加え、窓や壁面などを有効活用することが必須となります。しかし、窓、壁面、トップライト(採光や通風のため屋根に設置される窓)部へ設置するためには、従来の無機系太陽電池では、透明性(シースルー性)、色、重量などの課題があり、対応が困難でした。

今回の「シースルー発電フィルム」は、透明(シースルー)、軽量、フレキシブルという特徴を有しており、窓への設置が可能となります。窓用フィルム分野については、この分野で約50年の実績を持つスリーエム ジャパン株式会社と製品開発及び市場開拓を協力して進めています。また、その他の従来の太陽電池が取付けられなかった様々な場所への活用が期待されます。

当社は今後、市場の状況を見ながらお客様の要望に応えるべく、太陽電池のエネルギー変換効率、耐久性をさらに向上させ、シースルー発電フィルムの市場拡大を図っていきます。

【お問合せ先】

(株)三菱ケミカルホールディングス 広報・IR室 03-6748-7140

【仙台国際センター写真】

三菱化学とスリーエムジャパンと協力して窓用フィルムとして実証実験を行っています。

